

フィジーダイバーシティスタディツアー 報告書



募集チラシ
実施要綱
事前研修
フィジー地図
行程表
詳細行程
報告会
参加者感想文
会計報告



2014/7/24~8/1 **フィジー**ダイバーシティスタディツアー

募集説明会 **4月26日(土)** 市民プラザ 学習室201 午後1時半より2時半

■保護者のみなさまへ

急激な国際化が進み、多文化コミュニケーション能力の必要性が求められています。

現代の便利な生活空間にいて「当たり前」として生活している青少年が、フィジーで自然と向き合って「感じる」「考える」「行動する」を実践しながら成長することを目的とし、自然と共に多文化体験型のスタディツアーです。フィジーは英語圏で、近年海外留学に人気の国でもあります。

日本の若者たちが青年海外協力隊として国際協力の現場でがんばっています。ホームステイ、学校訪問、職場訪問を通して現地の方々と交流し相互理解を深めようと考えます。

今年は大人も参加のチャンスがあります。

派遣対象者 柏崎地域の中学生と高校生
市民(柏崎出身大学生含む)

募集人数 中高生8名、一般4名

個人負担費 17万円 一般25万

(原則としてツアー中の食費宿泊費を含みますが、個人的嗜好品は自己負担です) パスポート取得、旅行傷害保険、お小遣い等は個人負担。
※中高生で以前このスタディツアーに参加した人は応募できません。一般では可。

◎耳よりなお知らせ!!!

中高生で、参加決定者には「かしわざきこども大学」(事務局: 柏崎市子ども課)より補助があります。詳しくは説明会でご説明します。

応募資格など詳しい情報は、実施要項をご覧ください。

■日程表

(現地の状況等により、日程の変更もあります)

日	滞 在	日 程 等
7/24 (木)	柏崎 新潟 仁川経由	柏崎よりバスで新潟空港へ 仁川経由、 機内泊
/25 (金)	ナンディ バ ヴィタワ村	ナンディ空港着 隊員職場訪問 ホームステイ ヴィタワ村泊
/26 (土)	ヴィタワ村	村の生活体験 ホームステイ ヴィタワ村泊
/27 (日)	ヴィタワ村 スパ	村での文化交流 午後移動 スパ泊
/28 (月)	スパ コーラルコー スト	学校訪問 午後移動 ツバクラ泊
/29 (火)	コーラルコー スト	協力隊員活動現場訪問 環境学習 ツバクラ泊
/30 (水)	コーラルコー スト ナンディ	野鳥園見学 午後移動 ナンディ泊
/31 (木)	ナンディ	街歩き 帰国準備 ナンディ泊
8/1 (金)	ナンディ 仁川 新潟	ナンディ空港発仁川空港経由 新潟空港着 バスで柏崎へ

★応募は **5/13(火)** までに

2014年 フィジー・ダイバーシティ スタディツアー

公益財団法人柏崎地域国際化協会

青少年海外派遣事業 実施要項

- 1 目的 21世紀を開く地球市民を目指す中学生高校生と市民が、フィジー共和国で自然体験を通して、自立する心を養い、自然と共存して生きる方法を学び国際感覚を醸成するとともに、国際協力者としての諸活動を体験することと、世界の現状を知り、学び、自分の生活を振り返り、地域の人に伝える活動を目的とします。
- 2 期間 平成26年7月24日(木)～8月1日(金) 8泊9日(予定)
- 3 派遣人数 中高生 8人 一般市民4名
- 4 参加費 中高生 170,000円 ただし、パスポート取得料、旅行保険、現地での小遣い等は含みません。一人経費27万のうち国際化協会が現地活動費10万負担。一般市民 250,000円 食費現地活動費を含みますが、個人嗜好品は含みません。
- 5 プログラム 国際協力活動視察、学校訪問、地球温暖化影響現場視察、ホームステイ等
- 6 応募条件 柏崎地域住民であって、健康で協調性に富み、団体生活ができる中学生および高校生と一般市民で柏崎出身の大学生も含みます。協会が計画する事前研修会にすべて参加できること。帰国後、体験を生かして、学校や地域で活発な活動ができること。中高生は保護者の承諾が得られること。この事業を通して、国際化協会並びに地域の国際化事業に協力できること。以前にスタディツアーに参加した中高生は生徒枠では参加できません。
- 7 募集説明会 4月26日(土) 午後1時30分～ 柏崎市市民プラザ 学習室201
- 8 事前研修 事前研修は、渡航までに約3回及び帰国後の報告会に参加していただきます。
- 9 応募しめきり 5月13日(火)までに参加申込書と「応募の動機」の作文(協会指定の原稿用紙2枚)を添えて、国際化協会まで提出してください。参加申込書、原稿用紙は、(公財)柏崎地域国際化協会(市民プラザ2F)にあります。ホームページからもダウンロードできます。
<http://www.kisnet.or.jp/~kokusai/>
- 10 選考 作文選考と面接で派遣を決定します。
面接日 5月18日(日)午後2時より 柏崎市市民プラザ 学習室201
- 11 その他 当協会の会員でない方は加入していただきます。(年会費 1,000円)
天災、火災、不慮の災害、政府及び公共団体の命令、ストライキ、戦争、盗難、暴動、税関規則など、不可抗力の事由により生じた損失や病気、本人の責任により発生した事故などについては責任を負えません。また、上記の事情により事業を中止する場合があります。

☆お問い合わせ先

(公財)柏崎地域国際化協会 柏崎市東本町1-3-24 市民プラザ2F
☎FAX 32-1477 (平日9:00～17:00)
✉ kokusai@kisnet.or.jp

第1回事前活動 親子説明会

●重要な確認

- 1 パスポートの確認 持っていない方は早く申請をしてください。
- 2 海外保険について
当協会はスタディツアー中の安全に十分配慮いたしますが、参加者の負傷、病気、死亡その他の事故に対して補償はできませんので、必ず旅行傷害保険に加入してください。
- 3 ビザ
フィジーの場合、観光で1カ月以内の滞在なので、必要ありません。
- 4 自己の健康管理
自分の弱いところを知っておく 紫外線、胃腸、車酔い、虫さされ その対処
アレルギー等 植物、動物 食べ物 自己の健康管理
自分の得意なところを知っておく
- 5 自分の研究テーマを決める テーマをもとに学ぶ・気付くきっかけにする

- 協会 個人賛助会員について 年会費 1口1,000円

● 参加費について

かしわぎきども大学の基金からの補助も個人負担額になりますので、手続きをしてください。
個人負担金を6月末日までに振込みをお願いいたします。
振り込み手数料は各自ご負担いただき、振込名義人は **参加者本人名** をお願いいたします。
また期日までに、協会窓口にご持参いただいてもかまいません。(窓口月～金9:00～17:00)

振込金額： 140,000円

振込口座： 柏崎信用金庫 本店 普通 0383802

(ザイ) カシワザキチイキコクサイカキョウカイ
(公財) 柏崎地域国際化協会

住所： 〒945-0051 柏崎市東本町1-3-24

電話： 0257-32-1477

参加費内訳：

内 容	金 額
航空券	110,000
燃油サーチャージ	52,000
空港税、仁川	2,400
空港税、ナンディ	9,000
航空保険	600
柏崎⇄空港、バス代高速料金	11,000
現地交通費	40,000
ホテル、キャビン宿泊料	16,000
通信運搬	1,000
食費 全行程分	18,000
消耗品	2,000
賃借料(施設利用等含む)	2,000
現地ガイド諸謝金等	3,000
雑費	3,000
計	270,000
国際化協会負担分	△ 100,000
かしわぎきども大学負担金	△ 30,000
個人負担分	140,000

※参加者10名での試算
※変動する場合もあり

● 個人情報の利用目的について

当協会は、個人情報の保護に関する法律(平成15年5月30日法律第57号)に基づき、収集した個人情報を、下記業務に関し目的の達成に必要な範囲でのみ利用します。

- ・国際協力事業に関わる渡航書類に関しての書類作成のため
- ・国際協力事業において相手国で必要とされる情報提供のため
- ・当協会の国際理解講座・国際協力事業等の企画広報案内のため

★ 6月14日(土) 第2回事前研修 午後2時から3時半

■ 一緒に旅する仲間




引率	清水 由美子	(公財) 柏崎地域国際化協会 事務局長
一般	蓮池 真帆	ガールスカウト新潟県第1団リーダー
1	澤田 くゆり	柏崎高校 3年
2	西巻 圭哉	柏崎第二中学校 2年
3	土田 悠理	柏崎第三中学校 2年
4	小出 眞緒	柏崎第三中学校 2年
5	高橋 李音	柏崎翔洋教育学校 1年

■ 準備するもの

- ホストファミリー用 自己紹介写真
A4サイズにまとめる
- 学校交流用 日本紹介
自然 行事 生活 …
- 自分の研究テーマ
- 英語での自己紹介の練習
- ホストファミリー用のお土産
- 旅での役割
 - ・ 召集確認
 - ・ 記録(行動や時間)

特技や趣味の
写真もいいね！
説明も英語で！

住所やメールアドレス
があると連絡取りやす
いと思うよ！

		Taro Kokusai 1-3-24 Higashi Kashiwazaki, Niigaa 9450051
My Family 国際 Father Hikaru 光 Mother Hanako はな子 Sister Naomi ナオミ		

漢字・平仮名・カタカナも新鮮
自分の名前の意味も確認 しておこうね！

HFの名前や住所はメモするように！

■ フィジーの村に滞在する
海外での生活

■ 確認事項

- パスポートコピー
- 海外旅行傷害保険 保険会社の連絡先

■ 次回研修

- 第3回事前研修
- 7月17日(木) 午後6時30分から7時 7時から8時 壮行会
- 学習室201 最終行程確認

* 当協会の理事の前で、決意表明をしてもらいます。
壮行会には、できれば保護者の方の参加もお願いします。

■ 最終確認

旅行保険 加入した会社名&事故の時の連絡電話番号
日程 集合時間
入出国カード

☛ 研究テーマ	☛ スケッチブックに「日本」紹介のページ ...
くゆり	くゆり
圭哉	圭哉
悠理	悠理
眞緒	眞緒
李音	李音
真帆	真帆

バディについて

■ 準備するもの

機内持ち込みのバッグ内

- パスポート、パスポートのコピー
- メモ帳+筆記用具 (黒ボールペンは必ず)
- 機内で羽織れるもの
- 自分で必要なもの
- 液体は各100cc以下で透明なビニール袋(模様なし)に入れる
-

預入荷物 **ここ大事☛ 20Kg以内で 3辺の合計158cm以内**

- | | |
|---|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 自己管理用の薬(必要な人) | <input type="checkbox"/> 雨具 |
| <input type="checkbox"/> 日焼け止め、虫よけ | <input type="checkbox"/> サンダル |
| <input type="checkbox"/> 着替え衣料等 (泥だらけになってもいいもの含む) | <input type="checkbox"/> タオル |
| <input type="checkbox"/> 水着 | <input type="checkbox"/> その他個人で必要なもの |
| <input type="checkbox"/> ホストファミリー用おみやげ | <input type="checkbox"/> 懐中電灯 |
| <input type="checkbox"/> | |

☛ 南太平洋大学 (USP) 石垣 稔先生 携帯
日本から海外に描ける要領でかけてください

清水 携帯

本当に緊急連絡の場合のみにしてください

※ フィジーは通信電波が悪い国です。一番確実に連絡を取る方法はホテルにFAXを入れることです。
宛名にホテル名 +KASHIWAZAKI JAPAN と書き、本文は日本語で

※ 帰りの確認は、天候などにより飛行機に遅れが出る場合があります。
不安でしたら、帰国日夕方、新潟空港のホームページに大韓航空の飛行機の到着時間が出ますので、確認してください。

※ 原則、渡航中は電話連絡しないことにしています。ご了承ください。

2014 フィジーダイバーシティ スタディツアー

7/25 (バ)
ヤンゴナ、スル購入

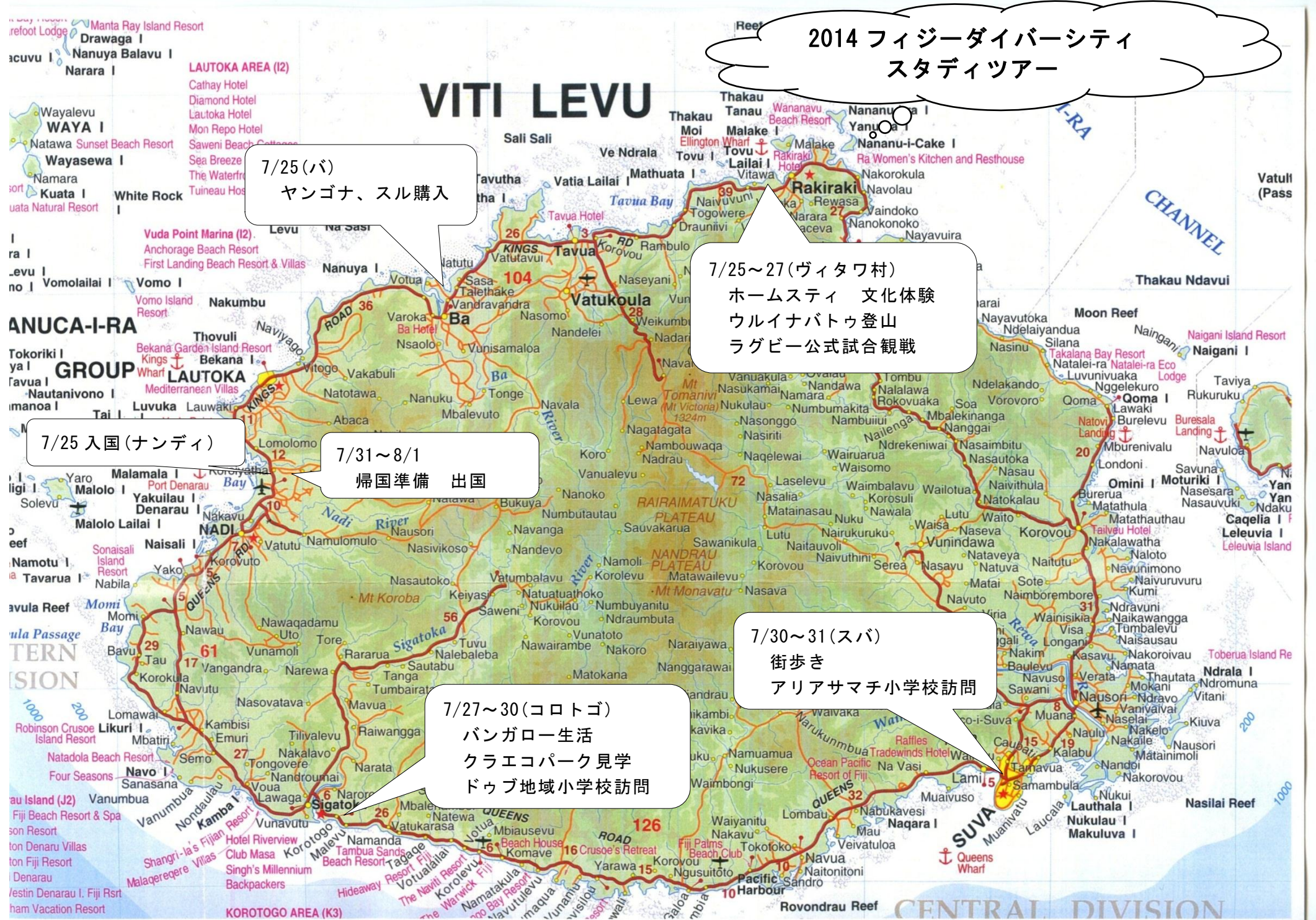
7/25~27 (ヴィタワ村)
ホームステイ 文化体験
ウルイナバトウ登山
ラグビー公式試合観戦

7/25 入国 (ナンディ)

7/31~8/1
帰国準備 出国

7/30~31 (スバ)
街歩き
アリアサマチ小学校訪問

7/27~30 (コロトゴ)
バンガロー生活
クラエコパーク見学
ドゥブ地域小学校訪問



フィジーダイバーシティスタディツアー7/24~8/1/2014

* 時間はすべて現地時間

(公財)柏崎地域国際化協会

日付	都市	時間	内 容		備 考 (移動・宿泊)
7/24 木	柏崎	5:30	集合	市民プラザ前広場	バス: 柏崎タクシー 5:30配車
		5:40	出発	新潟空港へ 7:30搭乗手続き	
	新潟 ソウル (仁川空港)	9:30	新潟空港発		大韓航空 KE764
		11:55	仁川空港着	空港内で事前研修 文化体験・軽食	KE137 機内泊
25 金	ナンディ	9:20	空港着	ナンディ国際空港 両替	バス:ピークル10:00~16:00 ナンディ空港→バ 60km
		10:30	バへ移動	メラネシアンホテルでリコンフォム3部屋 布、ヤングナ、水購入	
	バ	12:00	昼食	テイスティエッジにて昼食	バーヴィタワ 50km
		15:30	村着	ホストファミリーのもとに分かれる	Vitawa Ra, Fiji ヴィタワ村ホームステイ
ヴィタワ	19:00	夕食	村内自由散策 村の子ども達と		
	20:00	村集会場	村の青少年のダンス歌の練習を見学		
26 土	ヴィタワ	9:30	村の体験	ウルイナバトウ山に登る	路線バス、タクシー ヴィタワ村ホームステイ
		12:10		村に戻り各家庭で昼食	
	ラキラキ	14:00	ラキラキへ	スポーツ公園 ラグビー公式試合観戦	
	17:30	村集会場	村教会行事に参加 ケーキお茶		
27 日	ヴィタワ	19:00	各家庭	夕食 星空観察	
		10:00	村の体験	村の散策 教会日曜礼拝に参加 昼食各家庭	バス:ピークル13:30~18:00
	ナンディ	13:30	移動	コロトゴへ	ヴィタワ→コロトゴ
		17:00	バンガロー着	水食料品購入(ナンディ以外日曜はどこも閉店)	ツバクラビーチバンガロー
コロトゴ	18:30	夕食調理	バンガロー2棟 夕食	Tubakula Beach Bungalows	
	20:30	振り返り会	夕食	Korotogo, Coral Coast, Fiji ph:679 650 0097 f:679 650 0210	
28 月	コロトゴ	8:00	バンガロー	食事作り 洗濯	路線バス 同上
		10:00		クラエコパーク野鳥植物園見学	
	シンガトカ	13:40	町体験	町で自由散策後、水食料品買い出し	
		16:00	バンガロー	海岸で遊ぶ	
	コロトゴ	18:00	夕食調理	夕食	
		19:00	挨拶	協力隊高野氏来訪(打ち合わせ)	
20:30	振り返り会	振り返り会			
29 火	コロトゴ	9:30	シンガトカ	協力隊高野氏と寺院前待合わせ	バス:ピークル9:00~15:00 同上
		10:00	小学校	ドゥブ地域小学校訪問 授業参加	
	シンガトカ	12:00		シンガトカごみ最終処理場見学	
		13:30	昼食	中華レストラン	
	シンガトカ	14:30	市場	シンガトカ市場・環境活動見学	
		18:00	夕食調理	30日朝食用サンドイッチも作る	
19:30	振り返り会	振り返り会			
30 水	コロトゴ	8:45	チェックアウト	スバへ移動 スバで両替	バス:ピークル9:00~12:00
		11:30	チェックイン	サンセット1部屋、サリナ2部屋	
	スバ	12:30	昼食	MHCC3階レストラン	
		18:00	夕食	バスターミナル、Tappo City見学自由行動	
スバ	21:00		レストランへUSP石垣氏と協力隊岡田氏同席	サンセットホテル、サリナアパート Sunset Hotel & Sarina Apartments Corner of Gordon & Murray ST., Suva ph:679 330 1799	
	21:00		振り返りはレストランです		
31 木	スバ	8:45	チェックアウト	鍵はTown House Apartmentへ	バス:ピークル9:00~12:30~18:00
		9:00	小学校	アリアサマチ小学校訪問 授業参加	
	ナンディ	12:00	移動	スバ市内見学(バスに回ってもらう)	
		12:30	昼食	スバフードコート	
	ナンディ	17:30	チェックイン	荷物を置いて近くのスーパーへ	
		19:00	夕食	レストランZAIKAへ 帰国注意事項確認	
8/1 金	ナンディ	7:10	チェックアウト	ナンディ空港へ移動	ホテル送迎バス 大韓航空KE138 大韓航空KE763 バス: 柏崎タクシー 20:40配車
		7:10	移動	ナンディ国際空港 荷物預入	
	ソウル (仁川空港)	10:15	離陸	(遅延)	
		17:40	仁川空港着	国際線移動	
	ソウル (仁川空港)	18:25	仁川空港発	新潟空港に向けて	
		20:20	新潟空港着		
22:00	柏崎	市民プラザ前広場			

平成 26 年 7 月 24 日(木)

柏崎

新潟空港

韓国/仁川国際空港



保護者の見送りを受けて、新潟空港へ向かう。同じ学校の生徒や数回の事前研修もあり、みんな打ち解けている。初めての海外にしてはみな落ち着いている。

遅れもなく大韓航空機は離陸準備に入る。仁川国際空港の乗り継ぎは拍子抜けするくらいスムーズに行く。ナンディ向けの出発ゲートを確認し、空港内で、韓国文化体験の一つ 5×7 センチの大きさの木製のマグネット片の色つけに参加する。さすがハブ空港、乗り換え客を飽きさせないように、いたるところでイベントを行っている。

1 時間くらい事前研修をする。現地学校訪問とする日本紹介の順番を決める。くゆり「日本の歴史上の人物」、まお「日本の遊び今昔」、りおん「日本の四季」、ゆうり「日本のルールやマナー」、けいや「日本のスポーツ」の順で決まる。りおんによるクラリネット伴奏のミッキーマウスの手遊び歌を披露することになる。早めの夕食で韓国料理を食べる。慣れない味は少しずつ食べ無理をしないことを話す。

いよいよ 10 時間の長いフライトが始まる。大韓航空の機材は自席の前に各自画面があるため、子ども達は映画を選んだり、音楽を聴いたり、ゲームをしたり、はたまた勉強をしたりしていた。時計をフィジーの時間に合わせ眠る。

平成 26 年 7 月 25 日(金)

ナンディ国際空港

バ

ヴィタワ

時間通りナンディ国際空港に着く。順調に入国手続きは終えた。青い半券の出国カード片を無くさないよう伝える。携帯電話のSIMカードを購入し、両替を済ます。今年お世話になるピークルツアーのドライバー、ワカ氏が待っていた。英語しか話さないが、帰国日のホテルの確認をしたいので少し戻ってもらうことを頼む。ドライバーの判断ではできないとのことで、日本人社長の多田氏に電話する。快く了解してもらい 10 分位市街地の方へ戻る形になりグラッドメラネシアンホテルで予約確認と支払いを済ます。

いよいよバを目指す。バのバスターミナルで USP(南太平洋大学)の石垣稔先生と 12 時に会うことになっている。先生は 5 時間かけて首都スバから長距離バスで来てくれる。私たちが早く着いたので、町でスルという腰布や飲み水、トイレトペーパーなどを購入した。そして石垣氏と合流し、昼食をとるため予定していたレストランに行く。しかし心配の通り工事中であった。現地でも連絡がつかないので念のため石垣先生がバ出身で今は金沢大学にいる学生に



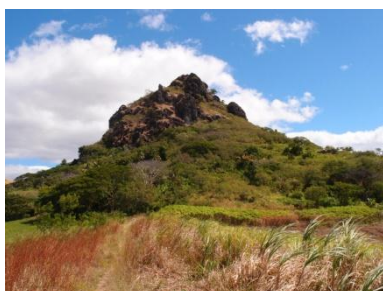
連絡し、お勧めの店を調べてくれたのだ。テイステイエッジというインド料理のレストランに行くことにした。バターチキンと2種類のナンやラッシーを注文する。最初予定していたレストランシャディはシングルマザーの自立支援のために青年海外協力隊員が指導して運営していたところで、少しでも協力したかった。運営が良くて改装工事中なら良いのだが、協力隊の支援が終わると運営が不安定になる事業が多いと聞く。人の意識改革を信じるしかない。

ホームステイ先のヴィタワ村に向かう。石垣先生の話によると、ミルクフィッシュの養殖を支援していた田中専門家がスバに来ていたという。養殖池の土手が崩れ、稚魚が満潮の時に流れてしまい、今年の養殖池の水揚げはできないとのこと。養殖池での協働作業は仲良くなれる良い機会だったのに残念である。

車からおり、スルを巻き、村の集会所に入る。村の長老のシティさんが私たちのホームステイ先の家庭を決めてくれる。4家庭にお世話になることに決まる。今年は政府からの命令でヴィタワのあるラ県だけは3カ月の期間セブセブの禁止なのだという。セブセブでカバを飲むという体験はできない。よく聞くとカバ、飲酒、喫煙の3つが禁止事項なのだという。フィジーの人が習慣として飲むカバは、鎮静作用があり一日中何もしたくなくなり、うつに似た症状になる。このカバ禁止で良い結果が出れば政府は期間を延ばそうとしているのではないかというのが、シティさんの見解であった。

子どもたちはすぐに村の子と仲良くなり、村内を自由に散策している。ボールゲームをしたり日本から持ってきた風船で遊んだりしている。村は皆を包み込む雰囲気がある。

平成 26 年 7 月 25 日 (金)
ヴィタワ
ラキラキ



9時半にシティさんの所に集まる。今年は養殖池の水揚げはできないので、山に登ろうという。山はヴィタワのシンボル、ウルイナバトゥ山。三角形をした岩山である。山登りの前に、首長のところに行って許可をもらってることが必要である。マイカが走って行ってくれた。許可はすぐおりて、山の方へ歩く。山道は村民が通るだけで、整備されているわけではない。登り始めやっとのことで広いところに着いた。周りを見渡せる余裕ができ、ここが頂上だと思ったら休憩するだけという。言われた時間の倍はかかり、片道1時間ほどで大きな岩の頂上に着く。見晴らしは



抜群で、村の全景が見渡せる。帰り道、マイカが木からクエン酸たっぷりの熟したオレンジを採って、皮をむきみんなに配ってくれた。疲れた体に心地よい。現地の人たちがポポと呼ぶパパイヤも食べた。山に行けばバナナ、オレンジ、パパイヤ、マンゴー、キャッサバ(いも)やダロ(いも)があり、海に行けば魚が取れるというのが村の生活だ。



午後にはラキラキでラグビーの公式試合があるということで、村の数人とラキラキに出かける。ラ県スポーツ公園というところで試合があった。大勢の観客が来ていた。シンガトカからのチームはフィジー国内でのチャンピオンだという。老若男女みんな試合を見に来ている。



帰りは路線バスの時間が合わないので、マトアがラキラキまで走って行って、タクシーを呼んで来てくれるという話になった。しばらくして荷台に幌を付けたトラックが来た。日本のようなセダン型のタクシーもあるが、大勢だとこのトラックタクシーを良く使うのだと説明してくれた。村に戻ると、今日は年に数回ある里帰りの日というか、教会を中心に地域で寄附の額を競う集会が開かれていた。私たちがまとめて寄附をする。通常ならカバを飲み延々と話をしたりしているのだが、今日はカバ禁止でお茶(ミルクティのようなもの)とケーキをいただく。その後各ホームステイ先で夕食となった。

夜には村には明かりが少ないので、こんなに星があったのかと思うほど満天の星空を見ることができた。空気が澄んでいるせいかもしれない。常夏の国だが、今年は寒い。日本人でも長袖がいる。フィジーの人はフリースを着てセーターを重ねても寒がっている。夜はかなり冷える。

平成 26 年 7 月 27 日(日)
ヴィタワ
ナンディ
コロトゴ

教会の日曜礼拝に参加する。私のホストファミリーは宗派が違い町に行くという。私たちは村の人からスルチャンバを借りてそれを着て礼拝に参加する。牧師が替ったのか礼拝の方式が以前と違っていた。前はフィジー語の分からない私たちのために英語を入れて話してくれたのだが、今年はそれが無い。聖歌隊の讃美歌も礼拝献金の方法も替わっていた。でも生徒たちは村の子たちと一緒に行動しているのだから、すんなり溶け込んでいる。良かった。



日曜はみんなそろって食事をする習慣だそうで、ごちそうが並ぶ。バナナに似たいもとキャッサバが主食で、魚を焼いてココナッツミルクで煮たものや野菜いためのようなものだ。飲み物は粉ジュースを溶いたものや温かいミロだ。



2日前にしか会っていないのに、家族のようだ。スルチャンバをお土産にもらった子もいる。もてなしに村民の温かさを感じる。どの子も村との別れがづらい様子だ。

村を離れ5時間くらいかけて、フィジーの南側コーラルコーストのコロトゴにあるバンガローを目指す。日曜でほとんどの村や町のスーパーは閉まっている。ドライバーのサディ氏によるとナンディからヴィタワに来る途中見てきたがナンディしか開いてないので、食料品や飲み水はナンディタウンで買うしかないとアドバイスをもらう。詳しく行動予定を打ち合わせておいたお蔭である。彼は明日ラマダンが開くので楽しみだと言っていた。インド系の彼はイスラム教徒らしい。明日の夜月が見えるまでなので、もし曇っていて月が見えないと延期になるのだそうだ。無事バンガローに着き、チェックインをし、サディ氏には明夜晴れるといいねと言って別れた。

自分たちで作った夕食を終え、振り返り会をする。テーマは「日本からでて、フィジーに来て村にホームステイした感想と自分のテーマの確認」。毎日振り返り会をする理由は、一人の気付きをみんなで共有したいためと、他人意見を意識してほしいからである。テーマを持つ理由はそのテーマを通してその国を調べ見て知ってもらいたいからである。そうでないと誰もが楽しかった、優しかった、面白かったという感想になってしまいがちだからである。

平成 26 年 7 月 28 日 (月)
コロトゴ
シンガトカ



村の生活の緊張も取れ、まとまった集団生活になっている。仲良くなりすぎて、初めて海外にでた子がほとんどなのが緊張感が薄れてきている感がある。「感じる」「考える」「行動する」がこのスタディツアーの目的なので、細かくは規制しない。5人みんなで調理し、片付けもみんなで率先してやっている。それはすばらしい。

バンガローの向かい側、徒歩5分という近距離にクラエコパークという野鳥植物園があると高野さんから情報を得ていたの、行くことにする。この施設はオーストラリア、ニュージーランド、アメリカの支援を受けて開園したようで、入場料も11歳以上30ドル(約1,800円)と高い。入場者のほとんどがオーストラリアなどからの観光客であったこともうなずける。

入場してすぐにイグアナや蛇の檻があった。ベジタリアンの蛇だから大丈夫と説明をうけて、生徒たちは怖がりもせず首に巻いたり頭に乘せたりしている。



2時間ほどのエコパークの後は、シンガトカの町へ食材の調達に出かける。日本語の話せる店員がいるフィジー国内有数の土産物屋もある。スーパーの前で集まる時間を決め後は自由行動とする。市場を見学し野菜果物パンなどを求め、他はスーパーで、何を食べたいか決めながら購入する。自由行動としたが、みんな一緒に行動している。

バンガローに戻ってからは、このパーク内で自由散策。海水浴や海岸散歩などを楽しむ。

振り返り会では「自分がみんなのためにしたこと」「〇〇さんが△△をしていた」をテーマにグループの観察を話題とした。料理をしてくれた、洗濯物を取りこんだなど発想は自分の枠から出ていないのが残念。普段の会話は日本の友人の話題や批判、フィジーの係の人へのからかいで終始している。「もっとフィジーを見て観察して気付こうよ」を望むのだが、高望みなのだろうか。

7時過ぎガードマンから「お客さん」とドアをノックされる。何事かと少し不安を持ちながらフロントへ。なんとそこには、明日一緒に学校へ行くことになっている高野光輝さんがいた。待ち合わせ場所をメールしたのだが、それを目にしていなかったのではと心配で訪ねてきてくれたのだ。柏崎を離れてからの、24日朝7時くらいのメールだったので、国際化協会のスタッフが、私の携帯に高野さんの携帯番号、待ち合わせ場所の目印、時間を知らせてくれていた。そのメールは韓国仁川空港で読んだ。本当に関係する人の紹介や手配のお陰でこのスタディツアーは成り立っていることを実感する。ありがたい。

平成26年7月29日（火）
コロトゴ
シンガトカ
ドゥブ



待ち合わせ場所の町の入り口モスク前にバスをつける。高野さん、仕事のカウンターパートナーアスニール氏、元同僚の市の職員の3人をバスに乗せ、ドゥベ地域小学校へ行く。高野さんはアスニール氏と一緒に3R (Reuse, Reduce, Recycle)の環境学を教えている。今日の課題はミスコピーなどの紙を利用して折り紙で魚をつくる。アスニール氏の指導が終わってから生徒たちは各グループに分かれて入り一緒に折り紙をする。だまし舟、風船、手裏剣、兜、カメラなど作った。以前から折り紙授業をしていたせいかどの子も関心を持っている。文字通り色とりどりの折り紙を喜んで好きな色を選んでいった。その後用意したアルバムで英語での紹介をする。相撲・剣道・空手を紹介した時はみんな



な争って前に出てきて見入った。大成功である。言葉はたどたどしくても、がんばって折り紙を教えたり、日本を紹介したり交流している。いい笑顔の交換である。



柏崎の有志から、途上国への協力として預ってきた鉛筆と消しゴムを、ドゥベ地域小学校校長先生へ手渡す。キャンディも持ってきたのだが、包み紙がゴミになるからと後で先生から生徒へ配ってもらうようにした。3R教育の指定校なのか学校内のゴミ箱も分かれている。廃材利用の工作授業もあった。

学校を後にして、シンガトカのゴミ最終処理場をバスの中から見学した。島国なので輸入に頼っているフィジーは世界のゴミの最終地とも言えると高野さんから説明を受けた。分別している訳でもなく、生ごみ、飲み物のペットボトルからビニール袋、壊れた生活用品などなどゴミが山積みになっているだけ。焼却もできないのだという。



昼食レストランを高野さんに紹介してもらい、町へ行く。市場にも行き、野菜ゴミ、それ以外の2つのゴミ箱を見せてもらう。これも政府が力をいれている環境教育の一環である。市場では売っている野菜の積み方に興味を持った子もいた。野菜や果物の種類も豊富なのが見てとれる。

夕食後の振り返り会では「これまでの反省」「学校の感想」「研究テーマの進み具合」とする。明日から都会で町歩きも危ないこともあるので気を引き締めるよう話す。

平成26年7月30日(水)
コロトゴ
スバ

女の子たちのバンガローでワイングラスが1つ不明であると連絡を受ける。部屋のどこを探してもない。子どもたちの荷物も確認してもらったがない。割ってはいないという。使う前に会ったのは事実。しかしない。誰も知らないというが、請求の弁償金を仕方なく払うことにした。

バスで首都スバへ移動する。ドライバーはサイ氏。彼は日本語を話すので、子どもたちは積極的に自分の関心事について聞いていた。フロントの人に聞いたりしている。意識がやっと出てきたかなとうれしい。



スバへ向かう途中イノシシを道路際で焼いている光景にであった。今朝狩りをして、肉を売るのだそうだ。日本と同じでせつかく植えた作物もイノシシの被害にあいダメになることが多いのだと話してくれた。

3時間くらいでスバに入る。シングル用のホテルと家族が住むようなアパートに分かれて泊ることになっていた。物騒な都会だが、夜警さんがいるからという理由でこのホ



テルを選んだ。昼食をとるために出かけ、街歩きをする。さすが都会は忙しく感じる。信号も慣れないので渡れると思ったら思いっきりクラクションを鳴らされ、子どもたちに笑われてしまった。

夕食は打ち合わせとお礼を兼ね、石垣氏、協力隊岡田氏と一緒にホテルから徒歩5分くらいのソウルレストランに行く。ここで振り返り会として「フィジーに持ってきた自分の研究テーマ」「進み具合」「日本と違うなと思ったこと」を両氏に聞いてもらう。それに対し、石垣氏から日本の輸出入について、食糧事情について、ゴミ問題についてなど詳しくフィジーの現状を解説してもらった。

帰り道、「ほかの人がうるさかったら、注意してもいいですか?」「もちろん、その言葉を待っていたよ」「気が付くのが遅くてすみません」「そんなことない、ありがとう」私がバスの中で大事と思うところを通訳していたのを聞いてくれたのだ。この旅の最高の収穫だと思った。

平成 26 年 7 月 31 日 (木)

スバ

ナンディ



岡田まりあ氏の勤務するスバ・サマンブラにあるマリアサマチ小学校へ行く。2時間をすべてお任せしますということなので、日本紹介からはじめ、手遊び歌折り紙を教える授業に入る。柏崎の子どもたちは大活躍で、セメダイ風船を見せたり、折り鶴を教えたり、手裏剣を作ったりして、どの子も一生懸命だ。特技の縄跳びを披露し、日本を知らせようとする行動は何の抵抗もなく実行できている。どの子も笑顔で話している。交流の終わりに手話を交えて国家を歌ってくれた。去年のクラスの耳の不自由な子がいて、それで手話を入れたとのこと。教育の柔軟さを感じた。ここでも、預ってきた鉛筆と消しゴムを校長先生に渡す。高学年はボールペンが主だが、低学年は使うとのこと。校長先生にお渡しする。校長室でお茶とパパイヤ・スイカなどでもてなしを受けた。子どもたちは自分たちのおしゃべりには声を出す。校長先生が話題を振ってもあまり反応しない。ヒヤヒヤする。「挨拶をすることから教えなければならないのか、今の子は」と思った。こういう場面でどうふるまっていかが判断する経験がないからなのだろうか、日本でも先生に対し尊敬を表さないなどの態度が影響しているのだろうか。イギリス流の教育制度が根強いのこるフィジーの学校では、サー・マダムを返事として使っている。英語の尊敬語について指導すべきだったのかと自問している。日本の教育が変わってしまったのか。

この学校も、日本から来た私たちのために授業時間を作ってくれた。協力隊員岡田さんのお陰であるが、校長先生が理解してくれたから実現したのである。人のつながりでスタディツアーは成り立っている。ありがたい。



「スバの政府の建物は」と質問があったので、訪問の後、スバの市内観光をお願いする。伝統的な建物をデザインした国会議事堂、首相官邸、日本大使館を含む各国大使館などをバスで回りながらサイ氏が説明してくれた。その後昼食をとりバスで5時間くらいかかるナンディへと向かう。その道中、子どもたちの研究テーマへの質問に答えてくれていた。道を数人で歩いている姿はよく見る光景で、あまり自転車やバイクを見かけない理由の一つとして、「フィジーの人はみんな一緒に好きだから」だという。みんな一緒に好きということは結びつきが強いということで、困っている人にはみんなで助けるし、さみしそうな人を見ると友達が食事に誘ったりひとりにしない。よくかわす「ブラ」は単なる挨拶のようだが、ことばには「bless you」の意味があり、時には「お大事に」、儀式のときには「幸せに」「健康で長生きをして」の意味があり、くしゃみをしたときにも「ブラ＝お大事に」と声をかけるのだと話してくれた。ブラには深い意味があるのだということを理解できた。今度「ブラ!」を使うときはその精神的なことまでも理解して使いたいと思った。

平成 26 年 8 月 1 日 (金)
ナンディ国際空港
仁川国際空港
新潟空港
柏崎

7:20 ナンディ国際空港へ向かう。空港の出入り口の建物も伝統的な屋根の形になっていることに初めて気付く。荷物預入、出国手続きも順調に進み、再び10時間のフライトで、韓国へ。今年は新潟便へ乗り継げる。仁川空港はやはり混んでいる。着いたゲートがシャトル利用のゲートだったので気は焦る。新潟便のゲートにやっとのこと着いたが、トイレ休憩もなくすぐに乗り込まなければならなかった。

新潟空港に時間通り着き、柏崎タクシーのバスで市民プラザ前に22時10分戻ってきた。フィジーで受け取ったいっぱいの感動をゆっくり紐解いてほしいと思っている。スタディツアーは「感じる」「考える」「行動する」がテーマで青少年に海外でいっぱい感じてほしい、困ったことを体験して、将来の自分の目的を見つけてほしいという思いで実施している。時間も手間もかかるのは事実だ。今回は私にとっても考えることが多い旅だった。

(文責：清水)

2014 フィジーダイバーシティスタディツアー帰国報告会

日 時： 平成 26 年 8 月 17 日 (日) 午前 10 時より午後 3 時 15 分

場 所： 柏崎市 市民プラザ学習室 201・202

内 容： 参加者 30 名 (男 9 女 21)

10 : 00 ~ 12 : 00

発表準備・発表ポスター制作

自分の研究テーマに沿ったポスターを作る

自分の写真、現地で集めたパンフレット、友達からの写真などを集め分かりやすく表示する。

・発表順を決める。

13 : 30 ~ 14 : 40 司会 清水事務局長

あいさつ 新野良子副理事長

体験報告 1 西巻 圭哉 「フィジーのスポーツ」

2 小出 眞緒 「フィジーの遊び」

3 澤田 くゆり 「日本とフィジーの関係」

4 土田 悠理 「フィジーのルールとマナー」

5 高橋 李音 「フィジーの自然環境について」

引率感想 蓮池 真帆 ガールスカウト新潟県第 1 団

旅の全体説明 (PPT) 清水 由美子

14 : 45 ~ 15 : 10

各自コーナーでポスターセッション

報告内容、土産、旅の感想など質問に答える。

おやつコーナー

豆菓子 1 種、ビスケット 2 種、キャッサバチップ、麦茶

15 : 10 ~ 20

会場片づけをして閉会



私の研究テーマは「日本とフィジーの関係」です。どのように生計を立てているのか、遠く離れた日本と何かつながりはあるのだろうかという疑問を感じたからです。私は説明会に出てスタディツアーの説明の中で、入村の儀式ということばを聞いて何らとんでもないことをさせられないだろうかという不安と期待でいっぱいでしたが、村の事情で行われませんでした。複雑な気持ちになりました。



(右から2人目が筆者)

フィジーと日本の貿易は活発とは言えず貿易総額は113億円で、日本からの輸出は自動車・バスなどで、輸入は断トツにマグロです。現地で大変お世話になったUSP(南太平洋大学)の石垣さんの話によると、マグロは緯度0~10度の地域でよく獲れて、それらがフィジーに集まり太平洋諸国の交易地になり、栄えているそうです。また、首都スバには日産やトヨタの車、バス、看板が多数あって、日本の技術の高さが世界に認められているのかと改めて肌身で感じました。

食品を買いに行った際、MADE IN AUSTRALIAの食品が多数で、生ものは保存状態が悪かったです。フィジーは日本と同様輸入に頼っている国ですが、日本と違い新興国で他国からの助けを必要としている国でもあります。実際道路の整備具合も悪かったし、村では水が出ない時間帯がありました。確かに不便だったけど村に行った者だけしか味わえないような気持ちになり、フィジーのために何ができるのか…考えました。

フィジー人はみんなと何かをすることが好きだからバイクや自転車に乗っている、人はほとんど居ませんでした。また、目が合うとやさしく微笑んでくれ、心が温かくなりました。私が一番印象的だったのは村にホームステイしたこと。一緒に眺めた星、交わした会話、山頂からの絶景は絶対忘れません。

人には与えられた役目、その人にしかできないことがあります。自分も幸せになれる相手も幸せになること。それを実行するのが私たちの役目だと感じました。すぐに思いつかないですが、時間を掛けてしっかり勉強していきます。

私はこのツアーに参加し本当にたくさんのことを体験し感じ、しっかり心に留めました。NO BODY, BUT I(私のできること)こんな夢のような体験ができたのは清水さんを始めとした国際化協会の皆さま、一緒に旅した仲間、協力してくれた家族のお蔭です。ありがとうございました。

フィジーの村にこのまま住んでいたい。村を離れるときに私が強く思ったことです。私がフィジーで過ごした九日間はとても有意義で幸せな日々でした。このように思うようになった理由は二つあります。

一つ目は、フィジーの村の人たちの温もりです。私に初めて会ったばかりなのに、大人は肩を組んでくれたり、子どもは抱きついて来たり、食事をするときも「カナ！カナ！=食べて！食べて！」とフィジー語で食べ物を進めてくれます。

翌日ヴィタワ村の山に登りましたが、その山に植えてあったオレンジやパパイヤも食べさせてもらいました。日本と比べると、とても甘みが強かったです。大事に育てた果物を食べさせてくれたり、親しみを持って優しく接してくれたことに本当に人の気持ちの温かさを感じました。

二つ目は友人がたくさんできたことです。村には子どもが多く住んでいて、学校から帰ると、みんなで仲良く広場で遊びます。その様子を私が見ていたら、「一緒にサッカーしようよ！」と英語で話しかけてくれました。私はとても嬉しかったです。そして私がゴールを決めたときは、口笛を吹いて一緒に喜んだり握手を求めて来てくれたりして、本当に楽しかったです。

私の研究テーマ「フィジーと日本のスポーツ」について調べてきました。それに関連して村の子ども達に好きなスポーツを聞くと一番多かったのが、ラグビーです。私も公式戦を観戦しました。とても観客が多く、人気の高さがうかがえました。私はフィジーに行く前はラグビー一色の国だと思っていました。しかし、来てみるとテニスをしている人を見たり、サッカーやバスケットボールが好きだという子どももいました。子ども達はスポーツで繋がっているのかな、だから団体種目が人気なのだなと思いました。私が準備していき、学校で日本のスポーツ紹介をしたところ、すごく関心を持ってくれたのは相撲でした。野球・剣道・柔道・空手・弓道なども写真で紹介したのですが、歓声をあげて反応してくれたのが相撲でした。

私はフィジーの村の子ども達が見せてくれた純粋な心を忘れずに、これからは人に対して優しく、前向きに生きていきたいと思っています。



(右端が筆者)

ツアーを通して感じたこと

柏崎第三中学校 2年 土田 悠理

私がフィジーダイバーシティスタディーツアーに参加して感じたことは二つあります。

一つ目はフィジーの人たちの温かさです。ホームステイ先のヴィタワ村に行くと村の人たちが気付いてすぐに、「ブラ！」と挨拶をしてくれました。フィジーでは当たり前のことと教えてもらっていましたが本当に驚きました。日本では、近所の方、友達、家族など身近な知り合い同士でないと気軽に挨拶はできないと思います。それに、学校の目標が「あいさつをする」など、フィジーでは、当たり前なのが日本の学校では目標として掲げています。こうして考えてみると当たり前のことだと改められました。

フィジーの方たちには言葉はうまく伝わりませんでした。顔をみてコミュニケーションをとったり、声をかけてくださったりしました。それがとてもうれしく思いました。

二つ目は国内での格差があるということです。私たちは最初ヴィタワという貧しい村へ行きました。その村は電気がつかなくなったりトイレの水が流れなかったりと不便なことが多々ありました。しかし首都であるスバという都会に行くと、電気は当たり前につき水は流れますし、街では信号もあります。多くのスーパーや高いビルが並んでいました。日本でも田舎と都会の差はありますがフィジーほどではありません。とても大きな差がありそれにも驚きました。でも村は不便でしたが村の人たち全員が家族みたいに仲が良く私まで心が温かくなりました。

このツアーを通して日本という国だけでなく他の国を見ることができ、違いを体験することができました。日本では良いとされている事でも、外国では悪いとされる行動があるのだと改めて分かりました。ルールやマナーの違いという私のテーマに沿ってフィジーについてたくさんの事を知ることができました。交通ではラウンドアバウトという仕組み(右側優先)の交差点をよく見ました。生活では「ブラ！」と挨拶し「こんにちは」の意味と「お大事に」の意味もあること。食事はみんな揃って食べる。人の前を通る時は「チロチロ」というなど発見しました。

この経験を生かし、外国について友達や家族に知ってもらい、日本と外国の違いを伝えていけたら良いと思います。



(前列中央が筆者)

フィジーダイバーシティスタディツアーに参加して

柏崎第三中学校 2年 小出 眞緒

私は、このツアーに参加してたくさん学び初めての経験、体験をしました。外国に行くのは初めてだったので、最初は不安ばかりで、「大丈夫かな」「ちゃんと調べられるかな」とかで頭がいっぱいでした。また、私は英語が大の苦手なので話しができるかとても心配でした。フィジーに着いてそれらの不安は大きくなるばかりでしたが、日本とは全く違うフィジーでの体験を楽しみにしている自分も少しありました。フィジーの最初の宿泊はホームステイ先の家でした。ヴィタワ村に着くと村の人たちが荷物を持ってくれました。村を紹介してくれたり、自分の名前などいろいろ教えてくれました。村の人たちは、まるで私たちを昔から知っていたかのように接してくれて本当にうれしかったです。日本では絶対ないことだなと思いました。私の中の不安が少しなくなっていた気がしました。村の子ども達といっぱい遊んで、しゃべってとっても楽しいホームステイになりました。

村を出てからも、車の中にいる私たちに手を振ってくれたり、「ブラ」と言えば明るく返してくれました。本当に明るくていい人たちばかりだなと思いました。私のテーマは「遊び」でしたから、日本の昔の遊び今の遊びを調べて行きました。学校訪問で、日本の遊び紹介をした時、私の英語をしっかりと聞いてくれて、本当にうれしかったです。

私は最初に書きましたが、このツアーでたくさんの事を学びました。フィジーの人たちはいろいろ不便なこととかあるけど、そんなの関係なく明るく過ごしていました。みんなとても優しく「まだ居たいな」と思いました。また自分のテーマ以外にもいろいろ分かって良かったです。最後になりましたがホームステイ先のロイスさん一家にはとてもお世話になり感謝しています。また機会があれば行きたいと思います。とっても楽しい経験になりました。フィジー最高です。



(中央が筆者)

フィジーで見つけた宝物

柏崎翔洋中等教育学校 1年 高橋 李音

私は、フィジーに行くととても良かったと思っています。日本では体験できないことをたくさん学んできました。主に現地の人から学んだ大切なことは三つあります。

一つ目は「助け合いと協力」の精神です。ヴィタワ村のシンボルになっている岩だらけの崖の山に登った時に、現地人は私たちを一生懸命助けてくれました。日本の山とは違い、足場も悪い絶壁山で手を伸ばし、私たちを引っ張ってサポートしてくれたヴィタワ村の子ども達を、私は決して忘れません。

二つ目は「自然を大切にすること」です。今、日本の子ども達はほとんど外で遊ばず、家の中にこもってゲームをしている事でしょう。ですが、フィジーの子ども達は違いました。テレビやゲームもないけれど、自然の中で遊びを生み出し、たくましく生きていく子ども達はすごいなあと感動しました。何も無くても無いなりに遊びを考えていく能力を持っているフィジーの子ども達に比べ、日本の子ども達はそういう能力が欠けているなど実感しました。

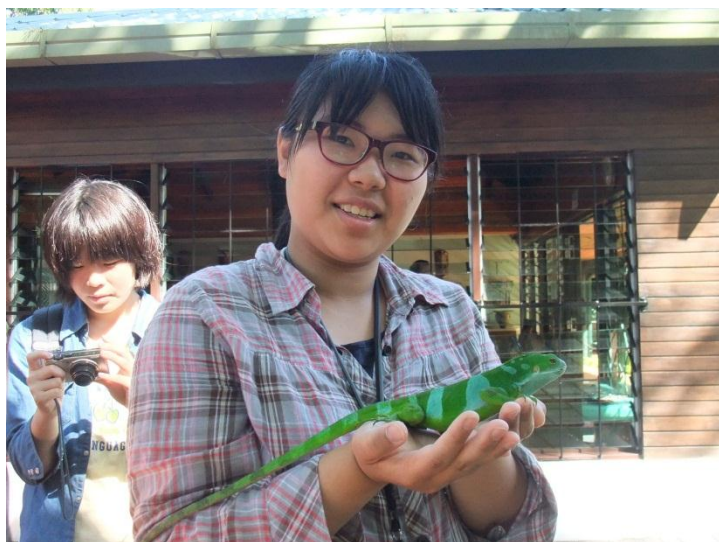
三つ目は「感謝する心」です。当たり前のように聞こえますが、実はなかなか難しいものでした。フィジーに行くお金を出してくれて、いつも笑顔で見守ってくれたお父さんお母さん。九日間大変お世話になった清水さんと、一緒に旅した仲間達。少しでも視野を広げよう、世界を広げようとして協力してくださった青年海外協力隊の先生方を始めとする多くの方々。そして私達の事をやさしく迎えてくれた村の皆さん、私に大切な三つの事を教えてくれた村の子ども達やホームステイ先の家族…その方達をすべて含めて感謝の気持ちを、この場をお借りして伝えたいと思います。直接現地の人々に見せることは難しいことだと思うけれど、私からフィジーの人々への感謝の気持ちは絶対に忘れたくない大切な宝物となりました。いつまでも柏崎とフィジーが友好であり、平和であることの喜びを感じて生活していきたいと思っています。



(中央が筆者)

引率する立場での参加

ガールスカウト新潟県第1団 リーダー 蓮池 真帆



私は今回引率者として参加させていただきました。自分の気持ちの中で、フィジーの食生活について調べてきたいことと、村のみんなに会いたいという思いがあったからです。

私に清水さんのアシストとして何ができるのかととても不安でした。でも私は食を勉強しているので、バンガローでの自炊の部分は協力できるかなと思っていました。今回の参加者は静かで大丈夫なのかと心配をしていましたが、新潟空港に着いて

からは皆気持ちが打ち解けたように話をしていたので安心しました。

フィジーに着いてからは、皆で協力し合い買い物をして少ない材料で調理をし、何とか料理ができました。笑いも絶えずそれぞれ頑張って作りました。ふざけすぎて清水さんに注意されたこともありましたが、心新たに気持ちを引き締め頑張りました。

小学校を訪問し、それぞれテーマを発表し日本紹介をしてきました。私たちの入ったクラスでは折り紙や鬼ごっこをしてたくさん遊びました。柏崎からの子ども達はすんなりクラスに打ち解け交流をしていました。みんな表情はいい顔をしていました。

ホームステイ先は電気が少なく乾季で水が少ない季節だったので水では苦労しました。食についていえば、食事はタロイモやロティ、ナンのような粉ものが多く、栄養不足を補うためかミロが朝晩でした。緑の野菜は村では見かけませんでした。

前に来た時に、養殖池の魚の水揚げをしたけれど、今年は魚が逃げてしまったとかできなく、山に登ることになりました。村の子ども達に助けられながら私たちは頂上へ登ることができました。

一番フィジーらしい体験のセブセブが今年は禁止になっているということで、それはできなく残念でした。一昨年ホームステイした時に貰ったスルチャンバ(民族服)を着て生活していました。その時のホストファミリーに会いに行き、ものすごくうれしかったです。おじいちゃんが携帯の中に前の私達の写真を残しておいてくれていて、それを出して見せてくれた時には涙がでそうになりました。

村のみんなに再会できたし、このツアーに参加できたことを本当に感謝しています。

片言で交流の若者励みに

長岡市(フィジー在住)

高野 光輝(23)

青年海外協力隊員

「子供の目の輝きが印象的だった」

柏崎市出身の中学生がつぶやいた言葉です。先月末、私が青年海外協力隊として活動するフィジーで、柏崎地域国際化協会主催の青少年スタディツアーの中学生から専門学校生まで8人の受け入れを担当しました。

一行が訪問したのは地方

の小学校でした。当日は小

学5年生を対象にした環境

教育の一環としての廃材工

作(折り紙)授業があり、

日本の生徒からは言葉や

歌、伝統的な遊びなど日本

文化紹介もありました。

うれしかったのは、参加

者がすすんで現地の子供た

ちと共同作業を始めてくれ

たことです。特に教え方の

指示を出したわけでもあり

ませんが、後でアンケートを見ると今回が海外初経験という生徒が大半でした。

しかし、片言の英語で、照

れながらも現地の子供たち

と懸命に意思疎通に努力し

てくれました。

良くも悪くも物事がスロ

ーで活動中ストレスがたま

ることもあるフィジーで

すが、思いがけず地元新潟

からの若い訪問者とのふ

れあい、私も活動の背中

を押された気分になりました。

平成26年度青少年海外派遣事業
 フィジーダイバーシティスタディツアー
 収支計算書

(公財) 柏崎地域国際化協会

収入の部	金額 円	支出の部	金額 円
参加者負担金	800,000	旅費交通費 航空料金	647,500
こども大学負担金	150,000	燃料サーチャージ	348,600
国際化協会負担金	661,310	仁川/ナンディ空港税	96,320
		航空保険料	4,200
		新潟空港バス	90,160
		現地交通費	227,461
		宿泊費	83,371
		通信運搬費 振込料・電話料	3,139
		消耗品費 救急薬等	6,028
		食費 韓国	5,300
		食費 フィジー	74,081
		賃借料 施設入場料	13,781
		印刷製本費 資料コピー代	1,617
		雑費 カバ、寄附等	9,752
計	1,611,310	計	1,611,310

派遣者一人当たりの経費(按分)		ツアー経費	
旅費交通費	航空券	92,500	647,500
	燃料サーチャージ	49,800	348,600
	仁川/ナンディ空港税	13,760	96,320
	航空保険料	600	4,200
	柏崎新潟空港バス	15,030	90,160
	ホームステイ、ホテル宿泊費	11,910	83,371
	フィジーバス	37,910	227,461
通信運搬費	振込料及び電話代	530	3,139
消耗品費	救急薬等	1,010	6,028
	食費 韓国	760	5,300
	食費 フィジー	10,600	74,081
賃借料	施設入場料 2か所	2,000	13,781
印刷製本費	資料コピー代	270	1,617
雑費	カバ、空港ユニセフ	1,630	9,752
	合計	238,310	1,611,310

上記に4月から8月事務局人件費を按分して追加

事務局経費	40,000	200,000
個人負担額	278,310	

スタディツアー実施記録

(公財) 柏崎地域国際化協会

目的 世界の現状を知り学び、自分たちの生活を振り返り、地域の人に伝える。(H9～19)
 人と自然の多様性を学び、「感じる」「考える」「行動する」を实践する。(H20～)

年度	行き先	実施	日程	泊日	対象	自己負担	学生	引率	一般
9	ネパール	1	98/1/3-9	6泊7日	高校生	15万/26	8	2	3
10	ネパール	2	99/1/3-10	7泊8日	高校生	16万/26	7	2	4
11	ネパール	3	00/3/25-4/2	8泊9日	高校生	16万/26	8	2	8
12	ネパール	4	01/1/2-9	7泊8日	高校生	16万/26	8	2	1
13	ネパール ■応募者3名のため中止	×	02/1/1-6	5泊6日	高校生	16万/26	3		
14	タイ	5	03/1/2-8	6泊7日	高校生	9万/20	8	2	
15	ネパール ■応募者1名のため中止	×	03/12/30-1/7	8泊9日	高校生	17万/27	1		
	グアム	6	04/3/28-4/1	4泊5日	中学生	9万/18	10/15	2	8
16	韓国釜山 ■応募者なし(中越地震の影響あり)	×	04/12/22-27	5泊6日	高校生	9万/18	0		
	韓国釜山	7	05/3/25-30	5泊6日	中高生	6万/13	7/8 辞退1	2	0
17	韓国仁川	8	06/3/24-29	5泊6日	中高生	6万/13	10	1 通訳1	2
18	韓国仁川	9	06/12/24-29	5泊6日	中高生	6万/13	8	2 通訳1	2
19	韓国仁川 ■中越沖地震により中止	×	07/08/21-26	5泊6日	中高生	6万/13	6	2 通訳1	1
	韓国仁川	10	08/03/26-31	5泊6日	中高生	6万/13	8	2 通訳1	
20	オーストラリア	11	08/08/04-11	7泊8日	中高生	10.5万(7.5)/28	8/14	2	
21	オーストラリア ■新型インフルエンザ世界的流行により中止	×	09/08/04-11	7泊8日	中高生	18万/28	7	2	
22	オーストラリア	12	10/08/16-22	7泊8日	中高生	10.5万(7.5)/28	8/11	2	
23	ニュージーランド ■2/22NZ地震、3/11東日本大震災により企画中止	×							
24	フィジー	13	12/07/24-8/2	9泊10日	中高生 共催 新潟県青年海外協力協会	14万(3)/27	8/8 2	1 2	
25	フィジー	14	13/07/25-8/3	9泊10日	中高生	14万(3)/27	6/6	2	
26	フィジー	15	14/07/24-8/1	8泊9日	中高生	14万(3)/27	5/5	1	1

()かしわぎきこども大学補助